

●特色ある取り組み

兵庫教育大学附属図書館では、2018年より、豊かなキャンパス緑地を舞台に、アウトドアライブラリーや、哲学対話、音楽コンサート、トークライブなど、学内外の研究者・文化人等とコラボしながら、SDGs志向の多様な知的アクティビティを楽しむ青空教室事業を展開している。(写真参照)

2019年末には、学外に飛び出し、より多様な価値観をもつ人たちが集う都市公園を舞台としたBLUE CLASS KOBEプロジェクトを始動。クラウドファンディングにより開催資金を調達した。当プロジェクトは、地域貢献に関わる本学のミッション「教育と研究の成果を地域や広く国内外に発信し、学校の教育活動に生かす」を、ユニークなカタチで実現する社会実験と位置づけている。

公園を大学の知を発信する拠点とし、同時に、大学の側も公園で起こる様々な出来事を通じて、教育研究を推進する。自宅でも学校でもない第三の場所が、神出鬼没のキャンパスとなることで、新しい教育のあり方を模索するチャレンジングな大学になることを目指す。



第1回「ブックリサイクル」(2018.10.18)



第2回「土・木・光：生活のなかにあふれるSDGs」(2019.4.17)



第3回「多様性/多様な性」(2019.11.9)

●経緯・成果・評価

当館では、「人が集い、知と実践が交差する、創造的で開かれた場」として機能することを図書館の理念として掲げており、2012年に設置したラーニングコモンズPAOを軸に、「コト」を重視した学習支援サービスを展開している。

BLUE CLASSは、「境界の曖昧さ」や「適度なノイズ」といった、このラーニングコモンズがもつ空間特性を、そのまま屋外に敷衍するというアイデアである。

文部科学省の「国立大学法人等施設整備次期5か年計画」において、“次世代ラーニングコモンズ”を想起させる「イノベーション・コモンズ」という新たな用語が挿入されており、大学キャンパス全体のイノベーション・コモンズへの転換が提言されている。しかし、真にイノベティブなコモンズ(共有地)となるためには、大学という境界も取り払い、都市公園のように、多様な人々が行き交い、語り合う場がよりふさわしいといえるのではないかと。コロナ・パンデミックを契機に急加速したオンライン教育技術の進展により、学びの場がより非限定となっている今、あえて風通しのよい屋外空間にラーニングコモンズを展開することは、大学教育に「風穴」を開けると共に、既視感のない新しい地域・社会貢献の風景を創出できるのではないかとという展望をもっている。



クラウドファンディングの実施



BLUE CLASS KOBE 広報バナー

●BLUE CLASSのコンセプト

1、SDGs

自然環境、貧困、平和、人権など21世紀に入り、ますます先鋭化してきた社会課題。これら課題解決のため、SDGs(持続可能な開発目標)の重要性が高まっています。そして、時を超えて情報資産を引き継ぐ使命をもつ図書館が、地域や大学において、SDGs推進の一翼を担うことには大きな意味があると考えます。

2、Commons

静寂を要求する図書館にアクティブな学びの場「ラーニングコモンズ」が出現したことで図書館に活況が戻りました。ラーニングコモンズとは、学習者が自由に動き、語り、学び合える“学びの共有地”のこと。その空間の特性をそのまま屋外に適用し、青空の下で学びの機会を広げます。

3、Green

今、都市の人々はランドスケープやライフスタイルに緑を強く求めています。その点、私たちの大学は緑のオアシスそのもの。山々に囲まれた美しい田園風景の広がる街に位置します。この資産を有効に活用したいと思い「BLUE CLASS」ができました。

4、DIY

終戦後のバラックのように、あり合わせの材料で即興的に作られた“プリコラージュ(日曜大工)的手法”が3.11以降の日本の建築シーンで注目されています。チームでも、コンテキスト(文脈)の違いから生まれる新しい風景。それに倣い、材料を学内で調達し、身の丈設計の環境づくりを試みています。

●参考URL

BLUE CLASSウェブサイト
<https://note.com/blueclass>

クラウドファンディングサイト
<https://readyfor.jp/projects/blueclass>

